

野上清子全集

別卷一

岩波書店

野上彌生子全集 別卷一

(別巻 全三巻)

一九八二年六月九日 発行

定価 三二〇〇円

著 者 野^の上^{がみ}彌^や生^え子^こ

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二五五
発行所 株式会社 岩波書店

電話 〇三二五十四二
振替 東京六二三四〇

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

舞台芸術の話〔座談会 谷川徹三・坂元雪鳥・宝生新他〕	三
結婚及び結婚生活を語る(抄)〔井上秀子・高良富子・中川善之助他〕	一七
『稀代の実子殺し』を考へる会(抄)〔金子準二・甲賀三郎・河崎なつ他〕	三三
入学試験問題座談会(抄)〔大森与吉・栗山重・青木誠四郎他〕	三〇
今日及び明日の男性を語る(抄)〔安部磯雄・加藤与五郎・徳田秋声他〕	三三
緑窓閑談〔対談 長谷川時雨〕	四七
野上彌生子を迎へて〔鼎談 宮本百合子・片山敏彦〕	五九
女流作家四方山話〔座談会 窪川稲子・円地文子・宇野千代他〕	一〇〇
芸術・文化・世相 国のうちそと〔座談会 中野重治・碓伊之助他〕	一二九
女性の眼を世界へ〔対談 宮本百合子〕	一四七

人間・宮本百合子〔対談 平林たい子〕……………一六三

「女流作家」〔対談 中島健蔵〕……………一八三

講和と日本人〔座談会 安倍能成・岸田国士・谷川徹三・杉捷夫〕……………一九九

国家と道徳〔鼎談 天野貞祐・長谷川如是閑〕……………二一八

けれども混血児は育ってゆく〔座談会 田中峰子・沢田美喜・田治林太郎〕……………二四四

平和を願う旅の報告〔鼎談 高良富・石垣綾子〕……………二五四

日本文化のよき発展のために〔鼎談 三笠宮崇仁・中野好夫〕……………二七三

私の見た日本の姿〔対談 エリノア・ルーズヴェルト〕……………二八三

「迷路」を終って〔対談 荒正人〕……………二九一

歴史的現実と創造〔対談 平野謙〕……………三〇七

世界を原水爆の灰で汚すな〔鼎談 松下正寿・神近市子〕……………三二三

緑陰閑談 能と文学〔座談会 高浜虚子・安倍能成・三宅襄〕……………三三三

問答有用——徳川夢声連載対談——……………三三八

岩波茂雄伝をめぐって〔座談会 小宮豊隆・和辻哲郎・大内兵衛他〕……………三五〇

目 次

成城町にて〔対談 丸岡明〕	三七九
後 記	三八七

対談・座談
一

舞台芸術の話

時 八月五日の朝
処 北軽井沢・大学村・野上氏山荘

主人 野上豊一郎氏
同 彌生子夫人

客 谷川徹三氏
同 たき子夫人

市河晴子夫人(三喜博士夫人)

坂元雪鳥氏(評論家)

宝生 新氏(下掛宝生流家元)

軽井沢の奥、草津電鉄で標高四千一百呎の信濃と上野の国境線を越えて、唐松と白樺の密生する六里ヶ原の高原の一角、南に浅間、西に白根の噴煙を望み、東に近く鷹つなぎ山の翠に対して、利根の上流に注ぎ込む溪谷を俯瞰する法政大学村の高台の上に、新しく建てられた茶室好みの離れ、開放した座敷には、目の下の谷川の瀬

の音と、絶えず聞こゆるうぐひすの声と、時々耳を驚かす時鳥の声とが、涼風といつしよに流れ込んで来る。床の間の軸は夏目漱石の水墨の竹の絵。古丹波らしい花瓶には庭から摘んで来た桔梗とかんざうの花。来客はいづれも同じ大学村の居住者の方々です。主人は病後だといつてまだ出て来られない。

芝居

野上夫人 宝生さんは、お芝居にはいらつしやいますか。

宝生 子供の頃はきらひでしたが、だんだんと、きらひでなくなりまして、若い頃には、一つ芝居を七八度も見に行つたことがあります。

夫人 どんなのが、お気に入りですか。

宝生 どれでもおもしろく思つて見ますが、能がつた

ものは厭ですな。

谷川 七八度も、どんな物を御覧になりましたか。

宝生 たとへば、先代の成田屋の政岡などは何度も見に行きました。松助の新造で、九蔵——やはり先代の九蔵ですが、——九蔵の仁木弾正でした序幕に、遊女に通はせるのを、相模が出て来て助けるといふのでした。源之助の三千歳。これなどは気に入って見ましたよ。直侍も好きでしたね。

谷川 それだけ揃つたのでは、立派でしたせうね。

宝生 私の見たものは、大抵先代のものです。現代のは見ません。それでも六代目は鉄砲友達で六代目が出る時は見に行きます。

谷川 六代目のものでは、どんなものがお好きですか。

宝生 義理合で見に行く場合が多いんですが、近頃は、あまり見ません。

坂元 腹を立てないで済むのは、「鏡獅子」位のものですよ。

夫人 でも、「鏡獅子」も、頭の振り方など、水撒きボンプのやうな気がいたします。お能の獅子の型は取れ

ないものでせうか。

坂元 能の獅子は時間が短いからあれでよいが、長くすれば芝居のやうになりますね。

夫人 「石橋」のやうにかういつたふうなこと(袖で型)位出来ないものでせうか。

宝生 とに角、骨が折れませう。

坂元 芝居は、毎日やれるだけ、骨が折れないやうに出来てゐますが、能は毎日やるわけに行かない。いつか桜間金太郎(金春流)が、能だつて毎日やれるといふから、それなら、毎日、同じ物をつづけて三十回やつてみる、といつたら、そいつア都合が悪い、といつてゐましたつけ。芝居は、実に、いゝ加減ぞんざいなものですよ。やる方で遊んでるのだから、見る方でも、本気になつて見る気にはなれません。

夫人 谷川さんは、この間、新聞に劇評をお書きになつたので、だいぶ御覧になつたやうですね。

谷川 小屋をぶつづけに五つでしたか、とにかく大分草疲れました。

坂元 お岩(菊五郎)のは、可怕くないといふぢやあり

ませんか、あゝ太つてゐちゃア……

宝生 本人も氣にしておりましたよ。しかも、羽左衛門の伊左衛門が若くて、好人物に見えたといふので。

夫人 「勸進帳」の立衆が四人といふのは、どういふわけでせう。もつと大勢出しては、いけないのでせうか。あれだけに限つたのは、能をそのまゝにはとられなかつた当時の遠慮でせうから、今は思ひきつて本行通りに大勢だした方がおもしろくはないかと思ひますわ。

坂元 歩きにくいでせうね。

市河 うじや／＼してゐては駄目ではないでせうか。

弁慶を囲んで珠数を揉むところなど、うじや／＼してしまひますよ。

谷川 山内容堂と団十郎との関係は實際あんな関係だつたのですか。

坂元 あれは、事実です。

宝生 また、先代の話になりますが、以前、先代の芝翫の「金閣寺」を見ましたが、その時の五代目（音羽屋）は、何だか厭な感じがしましたね。芝翫が堂々と

してゐるのに、音羽屋が品格に乏しく見えた故でせう。

谷川 芝居を御覧になつて、厭にお思ひになるのは——たとへば芸に品の乏しいといふやうな点ですか。

宝生 まあ、さうもいへませんが。芝居のために色々教へられることもあります。

谷川 芸の厳しさの足りないことなどお感じではありませんか。

宝生 それは、たしかに、さうです。芝居は能に比べると樂でせう。何しろ、黒ん坊が、絶句したら教へても不自然でないのだから、芝居の方が、氣が樂でせうね。能は、さうは行きませんよ。

芝居と能

坂元 文楽の人形芝居を見ると、台詞をつけると同時に感じが出るから感心した。芝居よりも活きてゐますな。

宝生 よくあんな文句が、相当に多く人形の動作といつしよにつけるものと、私も感心させられました。

谷川 一体、芝居を能に較べると、芝居の方は特に部

分々々を生かさうとしてゐて、全体の統一が、能ほど緊密でないやうですね。そんなところにも今のことは原因をもつてゐはしませんか。

坂元 きまりがよく行けば、芝居は型物でもよいことになる。

宝生 そこに行くとなは、手を上げるのでも、一寸、二寸、ときちんと定まつた形が出来てゐるもので、芝居と違つて、横、前、後、どちらから見ても、足の動かし方、手の出し方に調子が出来てゐる。ですから、写真を撮られるほど厭なことはありませんよ。どの部分を撮つても、それでいゝといふのではなく、一寸二寸三寸と、手の動きにも調子が出てゐるものですから、芝居と違つて、きまり、きまりを生かして行くといふわけには行きません。

坂元 舞台(能)で肩で漕いで歩く人がゐますね。袴を着けてゐる時は、尚更、みつともない。

宝生 歩く時は、腰から下の足だけで歩くやうにその位の修養は平生からしてゐなければならぬ筈ですが、夫人 掛けるにしても、かつら桶を取つても、腰が崩

れないやうにしてゐるさうではありませんか。

宝生 さうでもありませんよ。非常な働き物の場合は別ですが。

坂元 尻の端を、ちよつと掛けるだけで楽じやないです。

宝生 本当をいふと、中腰で前へ前へ上体を出すやうにしてゐないと、後へ、倒れてしまひます。

坂元 長く掛けてゐるやうな時は、どうです。

宝生 困りますね。

夫人 舞台で、蚊が飛んで来て螫すといふやうなことがございませう。

宝生 じつと耐へて血を吸はせておくより、し方がないですね。

坂元 蜂は？

宝生 舞台に、蜂や百足虫が匂ひ出したといふことはありますが、まだ螫されたといふことはありませんね。

谷川 こちらで手を出さなければ、蜂は螫さないのではありませんか。螫すといふことは、蜂にとつては命にかゝはることだそうです。宝生さんは人形芝居、よ

く御覧になりますか。

人形芝居、映画、銃獵

宝生 はア、時々、行くことがあります、自腹^{じばら}では見ません。人形芝居の義太夫は、いつも面白いと思ひますな。

坂元 義太夫は、聴いて、腹が立たない。

宝生 人形芝居はいゝ加減なことをしないから、こちら、本気で見られます。

夫人 足の動かし方だけにでも、十何年文樂はかゝるといはれてをりますね。

谷川 文樂の研究といふ三宅周太郎氏の本で私は知つたのですが、実に大へんな修行なのですね。

夫人 宝生さんは、活動通でいらつしやるさうですね。

宝生 いや、あまり見ませんよ。

夫人 では、奥さまのことかしら。

宝生 これも、あまり参りません。

夫人 デマなのでせうか。

宝生 でも、漫画や猛獸狩の映画は好きですよ。

夫人 野球は、相変らずいらつしやいますか。

宝生 野球は、日曜だけになりましたので、日曜は稼ぐ方で忙しいから、あまり行きませんな。

夫人 お能の樂屋にラヂオを据えつけて置いて、聞けるやうにしたら。

宝生 気が散つて駄目ですよ。

坂元 喜多^{きた}の樂屋には、明日の釣りの天氣はどうか、と午後三時の天氣予報を聞くためのラヂオが置いてあるさうだ。

あのせつかちによく釣が出来るね。

宝生 相当、上手ですよ。

夫人 宝生先生の鉄砲とはどちらでせう。

宝生 左様ですなあ。——この辺には山鳥がずるぶんゐますよ。

坂元 うづら、いぎ、もゐるでせう。

宝生 聞きませんね。あすこの池^{たろきは}(櫓沢の池)に、まがもが二羽、つがひで下りてたのを土地の者が鉄砲で打つた。それを買つたことができました。鉄砲も足が丈夫でないといけません。

坂元 山本老(狂言師)もやるさうですね。

宝生 大したことはありません。

坂元 行けば、必ず猪にぶつかるとかやうな話をしてゐるが。

宝生 いや、バタ／＼と出れば何でもズドンと打つ。あの山越えて逃げたとか。この山越えて逃げたとか、いつてますよ。

市河 その鳥やるまいぞ、やるまいぞ、ではおつゝきませんわね。

能の民衆化

夫人 若い方が、お能を見ないのは、組織が不便に出てゐるのが大きな原因だと思ひますわ。

谷川 さうですね。

宝生 私は、見て貰ひたいとか、見せようとかいふ考へは、大体ないのですが、能のためからいへば、若い人に見せるやうにした方がよいと思ひます。私としては、御見物があつてもなくても同じです。

夫人 喜多の催には、学生が、大勢まゐりますね。将

来のためには、宜しいでせうね。

坂元 よつぽど、沢山の人が来ないと、残る人は幾人もありませんから。

宝生 能を民衆化するといふやうなことは、出来ないことだと思ひますね。震災後、日比谷の音楽堂でやつたことがありました。後で写真を見て、こりやあ止せばよかつた、と思つた。広い所でやるのだから、骨折つて、音楽堂の隅の方で四方を囲つてやつたのです。が、ごちやごちやした感じで、一寸、芝居と違つてとつ、つきの悪いものでしたよ。

夫人 能は、時代に適應するやうに改良して行くことはできないものでせうか。五百年前に世阿弥が新機軸を開いたやうに。

宝生 よほどの傑物でないと新機軸は出せないでせうね。

坂元 能を民衆化したものに芝居があります。

夫人 昔の芝居創始者が能から新しい別の舞台芸術を作り出したやうに、もう一步進めて、芝居とは別のまた新しい舞台芸術を能から思ひつくことはできないも

のでせうか。

坂元 能を壊すことになるでせう。結局芝居にしないでやつて行かれなくなる。

宝生 私は、能には、これで行きつまりといふことはなくて、まだ／＼奥深く研究する余地があると思つてをります。

夫人 能の演出の局部的なものについて見ましても、例へば、照明は昔は蠟燭だったのが、今では電燈でんきを使ふやうになつた。そんなことを考へて見ましても、何か、もつとまだ変へる工夫が残つてゐるやうに思へるのですが。たとへば、催能さいのうの方法をもう少し変へて、もつと多くの人に、もつと気軽に見られるやうにしたら、どうでせう。経済的の方面から云つても、沢山の人の見せるやうにした方が、よいやうに思ひます。

宝生 どうも、さう民衆化することがよいといふ気にはなれませぬ。

坂元 謡にしても素人弟子しろうとを沢山とると、自分の勉強は出来なくなりますよ。

夫人 此節では官立の音楽学校でさへ、お能の稽古を

させてゐるではありませんか。

宝生 私どもの弟子は、皆あの学校に入れてあります。**夫人** お能でも何でも、その時代に生かすためには、

必要な改良はやつて行くべきではないでせうか。照明がすでにその一例として早くから実行されてゐるのですから、他の点でも変へてよいものは変へて行つたらいと思ひます。電燈でんきになつたのは何時頃からですか。

坂元 六平太(喜多)と九郎(宝生)と実(観世)の三人だけが反対して、あとは全部電燈でんきにすることに賛成したのです。実には、あなたの舞台は昼間にしますから、

といつて納得させ、九郎には、御時世ですからといふ話で、一段落つけました。五十燭光が四つでした。明治二十六七年頃の話です。ところが、その後、左陣(金春)が昔は百目蠟燭で実に明るかつたが、当節の電燈は実に暗い、と、自分が、八十になつたことは忘れて、いつているから、呑気なものさ。

夫人 宝生先生、外国へいらしてごらんになりたくはございませんか。

宝生 行つては見度いすな。

坂元 能をもつて行く話は、度々あつたですが、人数を揃へなくちやならないのと、一流興業師の手にかけなくては出来ないのと、いろ／＼あつて、話が、どうも旨く纏まらないです。

能の将来

夫人 能はずつとこれから先、どういふ形で残るでせうか。

坂元 残る時には墮落した形で残ると思ひます。

宝生 残れば、そんなものでせうな。

坂元 容易に潰れないものですな。

宝生 私の目下の考へでは、厭味のものになつて残るでせう。こまかい節廻しを使つたりするやうな傾向になつて残るでせうな。

谷川 義太夫なども、さういふ傾向のやうですな。

宝生 さうですか。——我々の方でいふと、謡にしても、小節を少くして、艶をあまり出さない心持で、氣持を表はさうといふのが、正しく保存する一つの行き方ではないかと思ひます。

夫人 能を墮落させない一つの方法としては、これからはどうしても経済方面の問題などを重大に考へなければならぬでせうから、舞台のことにしましても、各流分立といつたやうな状態をあまり募らせないで、たとへば一つか二つの立派な舞台を五流六流で共同に使用するといふやうなことを実行したらば、よほど経営も楽になるのではございませんでせうか。

宝生 さうなれば結構ですがね。現在、流儀々々で舞台を持つて居りますから難しいです。

夫人 合同ができないのは、感情の問題なのでせうか。分立してゐて、それがために衰へて行くといふのは惜しいと思ひます。

坂元 震災後、それが出来さうだつたのが、舞台を持つてゐる者が不賛成で、実現できなかったことがあります。能楽界に勢力のある徳川さんなどが動いても、うまく行かないのですから、今後、若い人の時代になつたら厄介でせう。

夫人 ですから、徳川さんとか安田さんとかいつたやうな後援者も大事でせうが、もつと一般の人に広く能

に興味を持たせることの方が、お能のためには、百年の謀^{はかりごと}ではないでせうか。さういふ、お偉い方のお若い方でお能の分る人がございますか。

坂元　ございません。

夫人　やつぱり、お偉い方の後援を受けるとなにか都合のいいことがあるのでせうか。

坂元　ありますね。ですから、百年の謀^{はかりごと}を立てゝゐるわけではないのです。

谷川　岸田さんが、チェホフの芝居と能とを、それぞれ別の意味で最も完成した演劇だといつてゐましたね。近頃、私の知つてゐる若い人が能を見ると皆感心してゐます。外人でも、教養のある外人は、歌舞伎より能の方に感心するやうではありませんか。

夫人　芸術の分る若い人に、能をお見せして、能はつまらないといふ人はございませんね。

宝生　現在の催能の方法は、たしかに悪いです。朝日新聞でするといふと、一般の人が気楽に見られる気がします。金春とか観世とかですとなると行きますと、行きにくくなるらしい。一つは、主催者側で早く切符を

片づけたい考へもあつて、買つても来ないやうな人に無理に、押しつけてしまふ。ですから、本当に見たい人は席がないといふことにもなります。

坂元　わつと、来られても困りますよ。

近代的表现

谷川　人形芝居でも、若い人形遣ひには表現にどこか現代的なところがありますね。こないだ紋十郎を見てゐてさう思ひました。うまいのですが人形芝居といふものの古風な雰囲気にとどこかそぐはぬものが感ぜられる。極つた型をつかつてゐながらさうなのです。松^{しょう}薦^{ちよう}が歌舞伎の女形らしくないと一時いはれました。今ではもつと歌舞伎役者らしくない歌舞伎役者が沢山出て来て松薦など目立たなくなつたでせうが、あれと似たことです。生活環境の変化によるのでせうか、芸に神経質な器用さとか理智的なものとかが感ぜられます。能の方の若い方にはさういふことは見られないですか。

宝生　さういふ傾向が見えると、師匠がどし／＼やつつけます。